

H28・8・9

第1号

通巻138号

学院通信

発行
金光学院
719-0111
岡山県浅口市
金光町大谷1486
TEL (0865) 42-3115
FAX (0865) 42-3114

平和学習 (原爆ドーム)



「泣くよ泣くよ」

金光学院院長 堀尾 光俊



私は、NHKの朝の連ドラや大河ドラマを観ていても、ドキュメンタリー映画を観ていても、あるいはそれが文学小説であつても、見ていて涙を流すことがある。

さらには甲子園球児の熱戦・奮闘ぶりを観ていても、つい胸が熱くなり目頭を押さえることがある。

子どもたちが幼い頃、一緒に食卓でテレビを観ているとよく言われたことを思い出す。「そろそろお父さん泣くよ!」「はい、お父さんティッシュ」と言つては、兄弟で笑つていたことを。

一般には、「涙もろい」とか「年のせいで涙腺が緩んでる」などと評されるが、私は決してそうではない、いつも反論する。

「泣く」ということは、泣けるということであり、人の痛みや喜びがわが事のように実感できる、分かる心をいただいているということである」と。

誰しも幼い頃は、自分のことで精一杯で、他人のことまで理解し、思いやる心は育っていない。だからこそ、泣くということとは、泣ける心が育っているという証ではないかと考える。

私が敬愛するある先生は、一冊の本を読み終えて「活字が見えなくなるほど泣けて泣けて、涙が止まらなかつた」と感想を知らせて下さり、さらに「涙を拭きながら読んだ自分自身に御礼申し上げます。そして、そのような心を育てて下さった親神様、父母に御礼申さずにはおれません」と、心境を伝えて下さった。正に感服の至り、ありがたく受けとめさせていただいた。

筑波大学の村上和雄名誉教授は「涙を流すと、良い遺伝子がスイッチ・オンになり、人の心は洗われ再生される。涙には何か聖なるものが宿っているようにも思える」と述べている。

さらには、わが金光教祖様は「かわいい(かわいそうの意)と思う心が、そのまま神である。それが神である」とも仰せられた。ここからも泣ける心をさらに磨いて、大いに涙を流したいものである。

学院修行について

学院次長 坂口 光正

五月十五日の入学式から、はや三カ月が経とうとしております。本年度の入学者は、男子九名、女子十一名、併せて二十名であります。

現在の学院寮が竣工(平成十七年一月)した平成十六年度の学院生は、代替寮での生活を公示したためか、男子十五名、女子六名の二十一名でしたが、本年度の入学者数はそれを下回ったことになりました。



【金光大神覚】筆写



学院長寮内巡回

す。

人数に合わせて洒掃区分など変更を加えたところもありますが、基本的な信行体制は変えずにすすめております。本科生は、OBからの「今年は人数が少なくて大変と言われることが多いかもしれないが、神様からの『今年はこの二十人で修行ができる』との思召しだと思おうので、皆で協力して取り組んでほしい」との言葉を胸に、各自が求道に励んでおります。

教師の育成は、学院を始点として、全教作用によって生涯を通して行うとされていきます。先日、三代金光様の時代に学院を卒業された先生のお話を伺いましたが、当時の学院生は、二年の本科、一年の特科と専科で、併せて百二十名だったそうです。篤い求道心を持った学院生が多かったとも聞かされました。かつては一定の教会修行を経て学院に入学した方も多く、学院では教義的な共通認識を培うことが求められたようです。現在では、学院卒業後、すぐに自立的な教師



図書館見学



信行輔導期間

としての働きが求められていることもあり、今年度は、少人数故の精鋭育成の可能性を視野に収めつつ、ご霊地での学院修行をいかに充実したものとすることが、学院には求められていると受け止めさせていただきます。

学院では、本年度より、先の第八期教育審議会の上申を受けて進めてきた学行の枠組みを一部変更して、結果取次者の養成に焦点を合わせて、学行科目の再編成を図っております。詳細は次号に譲りますが、全教のお祈り添えを受けて、ここからなお一層充実した学院教育を実現していきたいと思っております。

一日の信行内容

(時間)	(信行内容)
5:20	起床
5:40	参拝出発
6:00	本部広前御祈念・洒掃
7:30	朝食
8:30	朝礼
9:00	午前の課業
11:50	洒掃
12:30	昼食
13:30	午後の課業
15:20	参拝出発
15:40	本部広前御祈念・洒掃
16:40	お退けお見送り・洒掃
18:00	夕食
19:00	夜御祈念
	自修・入浴
21:00	閉門
22:00	消灯

人事関係

- ・ 講師 木村正明、助手 牛尾弘康、四月十五日付で辞任。
- ・ 教師 安武木綿子、細川展信、五月七日付で書記に任命。

講義科目・担当者

教会・布教科目	教団科目	教祖・教義科目	信修科目
結界取次 直信・先覚 教会活動(各種活動) 礼典(祭式) 礼典(祭詞)	教団活動 教団史	教制 教義 教祖	本教概説
高橋 寛志 眞田奈保子 安部 美雄 堀江 芳則 田中 照彦	高橋 斉 三好 光一 加藤 実	坂口 光正 佐藤 光貴	堀尾 光俊

「しまぐの歩み」

■ 信行輔導期間

学院では、学院生活の基本日課を習得し、ここからの修行の指針を見出すために十日間の信行輔導期間を設置している。前年度の卒業生であるOBから、奉仕・待命・炊事・洒掃を中心とした生活全般の指導を受けた。本年度の本科生二十名は慣れない黒衣に身を包み、OBの言動に意識を集中させ、修行生としての在り方を学んだ。OBの行き届いた指導により、十一カ月の学院修行の基礎が出来上がり、新年度が開始された。



寮内での指導

本年度のOBは以下の通り。(敬称略)

- 桂 善浩 (福岡・門司)
- 須崎 元道 (香川・高松)
- 近藤 真幸 (大阪・小阪)
- 林 百香 (福岡・秋月)
- 田中よしえ (福岡・天道)
- 今西和賀代 (岐阜・南大垣)

■ 聖蹟巡拝

聖蹟巡拝は、教祖様ゆかりの地を訪れ、教祖事蹟への理解を深めることを願いとして実施している。六月十七日は、本科生・特科生合同で教祖様ご生家方面に赴いた。荒神社、早馬神社、西側の墓地(金光家遠祖歴世親族家族之奥城)などを巡ってご生家まで歩き、ご当主・香取航師から、教祖様にまつわるお話を伺い、教祖様直筆の天地書附他、貴重な遺品を拝見した。また、教祖様実父である十平様が幼少の教祖様を背負って参ったとされる泉勝院を拝観し、占見村の氏神の大宮神社まで山道を歩き、拝殿で揃って昼食をいただき、帰院した。六月二十日には、本科生が五グループに分かれて木綿崎山周辺の聖蹟を辿った。

この他、今秋には西大寺観音院、吉備津神社、鞆祇園宮等を訪問する予定である。



教祖様ご生家

■ 平和学習

七月十八日、平和学習として、広島平和記念公園を訪れた。午前中は、原爆ドームや原爆供養塔、公園内の慰霊碑等を巡拝し、この日に向けて学院生で折った千羽鶴を、原爆の子の像へお供えした。その後、語り部・新宅勝文氏による被爆体験談を拝聴し、平和記念資料館を見学した。

七十一年前に原爆が投下された広島に立ち、戦争を体験された方の生の声や、当時の様相を物語る資料に触れ、人間が起こした戦争の悲惨さ、犠牲となった一つの命について、それぞれに感じることがあったようである。

午後からは、金光教広島平和集会(原爆慰霊碑参拝式、被爆のどん底から、原爆死没者慰霊祭、合唱)に参加した。学

院生の中には、慰霊祭で原爆によって亡くなられた霊様にお供えする水を、ご霊地から持参した者もいた。また、学院生全員で合唱奉仕に参加し、慰霊と平和への祈りを捧げた。

この日の体験が、ここからの学院修行や御用の上に、世界の平和と人類の助かりに向けた祈りや取り組みとしてつながっていくことを願う。



広島平和集会



■文化活動

学院では、教師としての基礎的素養を身につけ、深い人格形成に資することを願いとして、文化活動を設定しており、学院生は、典楽、茶道、書道のいずれかを選択し、毎週水曜日の午後を実施している。なお、今年は華道選択者が定員に満たず活動が中止となった。

典楽／十一名(男子五名 女子六名)

今年度は、箏二名、箏二名、龍笛六名、箏一名が選択しており、金光教典楽会



より岡本庄一師・金光あかり師を講師に迎えて、毎週稽古に励んでいる。初めて楽器に触れる者も多い中、互いに刺激しながら、秋に執り行われる霊大祭に向けて、神様に喜んでいただける御用となるよう、真心を込めて練習を積み重ねている。

茶道／四名(男子一名 女子三名)



茶道は、太田裕子師を講師に迎え、四名の選択者が藪内という流派を学んでいる。

初めて触れるお茶の道具に戸惑いながらも、自分や人がたてたお茶を五感で味わい、毎回異なる季節の美しいお菓子に心弾ませながら、お点前を身につけるため稽古に励んでいる。

これからお点前だけでなく、茶道具や書、軸、茶花などについても学んでいく。

書道／五名(男子三名 女子二名)

書道は、中桐真彦師の丁寧なご指導の下、臨書に取り組んでいる。それぞれが回を重ねるごとに上達している様子が伺うことができ、改めて稽古の大切さを感じている。

本年も、生神金光大神大祭に合わせて学院書華道展を開催させていただき、それぞれが思いを込めた字を書いた半切を展示する。また学院合同茶会では色紙に好きな字を書いて披露する予定もあり、今後とも先生のご指導を仰ぎ、稽古に勤しんでいきたいと願っている。



日程

(夏期在籍教会実習まで)

8月	7月	6月	5月
9 3 1 31 8	30 25 18 17 16 15 14 8 27 20 17 15 14 9 8	28 27 25 24 15 15 2 1	14 15 15 23 30
少年少女全国大会御用奉仕 夏期在籍教会実習	第三回 求道の日 第一信心レポート懇談 木綿崎山作業 第一定期考査 平和学習 第一回 部屋替え 「全教勢をどうして社会奉仕の日参加」 特科卒業証書授与式 第二回 求道の日 学院長寮内巡回 特科教話実習 聖蹟巡拝(木綿崎山周辺) 特科入寮式 特科入学式 聖蹟巡拝(生家方面) 文化活動開始(毎週水曜日) 教団独立記念祭御用奉仕	第一回 求道の日 大掃除(畳上げ) 文化活動開始(毎週水曜日) 教団独立記念祭御用奉仕 特科入寮式 特科入学式 聖蹟巡拝(生家方面) 聖蹟巡拝(木綿崎山周辺) 特科教話実習 学院長寮内巡回 第二回 求道の日 特科卒業証書授与式 「全教勢をどうして社会奉仕の日参加」 第一回 部屋替え 平和学習 第一回 定期考査 木綿崎山作業 第一信心レポート懇談 第三回 求道の日 少年少女全国大会御用奉仕 夏期在籍教会実習	本科入寮式 本科入学式 信行輔導期間 実践課題設定週間 授業開始 図書館見学 消防訓練

特科生 卒業



今年度の特科生四名(男子二名、女子二名)は、六月十五日に入学し、七月十五日までの一カ月間に及ぶ学院修行を進めた。

学行では、教典ゼミ・祭式・祭詞などを受講し、信行では本科生の班に加わって、参拝、洒掃、炊事等を行った。その中で、それぞれが教師としての基礎的素養を習得し、ここから御用に立たせていただく心構えができたようである。

また、本科生と同じ場で修行する中で、お互い刺激し合い、磨き合うことができ、共にここからの修行成就、御用成就を祈り合うことができるのは、大変ありがたいことである。

楽しい時間



秋田県・本荘教会
早藤 素史

特科生として入学させていただき、たった一カ月でしたが、色々なことを吸収することが出来ました。講義を受けさせていただき、金光教にどっぷり漬かることの出来た時間は、楽しい時間でした。また、金光教が一つの学問として研究されていることも驚きました。

この一カ月、学院生活を送る中で、人生の選択について改めて考えさせられました。私は、昭和六十三年に本科を受験



卒業証書授与式

したのですが、諸事情により入学を断念しました。今の人生に悔いはありませんし、幸せな人生を過ごさせてもらっているのですが、若い本科生が、金光教でおかげを受け、教師になりたいという姿は、とても頼もしく、忘れていた金光教への情熱を思い出させてくれ、あの時、学院で一年を過ごすことが出来たら、今どうなっていたのだろうかと思わされます。

卒業後、本科生よりも一足早く教会での生活に戻りますが、事あるごとに、楽しかったこの一カ月を思い出し、心を改めていきたいと思えます。

学院に入学させていただいて



大阪府・梅田教会
弓場 郁子

今年一月、在籍教会長から、学院特科に入学させていただいたらとの言葉をいただきました、とてもびっくりしました。輔教を四期させていただいておりましたが、年齢と体力のことを考え、本当に悩みました。それでも、これまでの人生でいただいていたおかげに対して御礼が出来ていないと感じていましたので、思い切って学院に入学させていただくことに

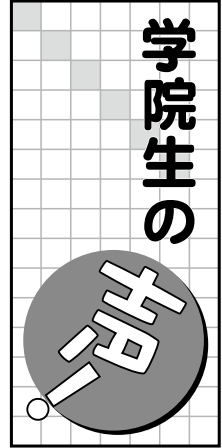
決めました。

学院ではたくさんさんの講義があり、何十年ぶりとなる勉強をしました。今までは金光教のことが本当に分かっていなかったのだとつくづく思われましたが、知ることの楽しさも感じました。信行では、時に体がついていかないこともありましたが、本科の人達のやさしい思いやりに支えられました。この学院生活の中で、神様への思いも今までより深くなりました。これからは、神様のお役に立たせていただけるようもっとも努力を重ね、周りの方々に神様を知っていただけるような御用にお使いいただきたいと思えます。このような機会を与えて下さいます。本当にありがとうございます。



教話実習

学院生の声



これまでの学院生活を振り返って



兵庫県・和田岬教会
石河 隆朗

入学前、私は金光教について興味もなく、全くの無知でした。教会長である父からは「行けばわかる」そして「人の話をたくさん聞いてきなさい」と教わり、学院へ入学しました。

ここまでの三カ月間、学院で生活させていただき、起床時間の早さや、聞き慣



授業風景

れない言葉が飛び交う授業、苦手な正座も、最初に比べると徐々にではありませんが、慣れてきています。これも、入学から十日間にわたって様々なご指導をしてくださったOBの方々のおかげであり、感謝の気持ちでいっぱいです。

「信心」「おかげ」「神」どれもまだ分からないのが本音です。今の課題は「神に心を向ける」ために、しっかりと御祈念をさせていただくこと。お世話になるすべての人・物・事に対して感謝の気持ちを忘れずにお礼を申すこと。大切な同期とお道の教師を志す本部広前の修行生として、信行に勤しみ、学行に努めていくこと。そして、人の話をたくさん聞かせていただくことです。少しずつでも神様を感じられるようにこれからも稽古をさせていただきたいと思っております。一日一日無駄にしない生活をおくるよう努め、今の環境に甘えることなく、心を込めて御用にあたらせていただきます。

学院生活を振り返って



富山県・高岡教会
小玉 さつき

学院に入学して約三カ月が経ちまし

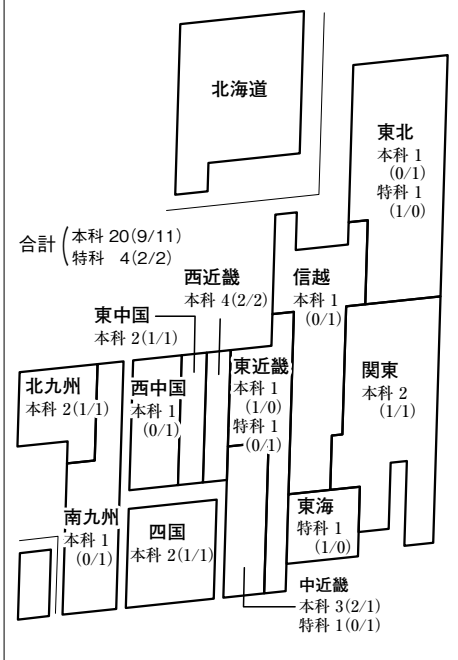
た。入学当初は慣れない生活に悪戦苦闘でした。特に早起きが苦手だったので、毎朝起きることに一苦労でしたが、今では自然とすっきり起きられる日が増え、苦だと感じなくなりました。少しずつではありますがありますが、学院での生活に慣れてきたのかなと感じています。

今までは、朝目が覚めることも、好きな時間に起きられることも当たり前でしたが、学院で生活をしていく中で、朝目が覚めることの有り難さ、命をいただいている有り難さを感じるようになりました。さらに、食事をいただく、目が見える、耳が聞こえる、話が出てくる、すべて当たり前だと思って生活していましたが、授業を通して信心やおかげについて学んでいくうちに、今まで思っていた当たり前は当たり前ではなかったことに気付かされました。世話

になるすべてのものに礼を言う心、そして感謝の気持ちを忘れずにこれからも残りの学院生活を充実したものにしていきたいと思えます。

平成28年度 教区別入学者数

()内の数字は男/女



自主企画 (作法の確認)



作業風景



教団独立記念祭
御用奉仕